

阿 智 村

1 地域の概要

- ◆ 平成 18 年 1 月 1 日に「旧阿智村」と「旧浪合村」が合併

[位置および立地条件]

- 岐阜県中津川市と隣接する県南西部に位置し、総面積の 9 割を山林原野が占め、農耕地は僅かである。
- 標高 410m から 2,191m までの山間地に 54 の集落が点在している。

[農業構造]

- 農家数（2000 年センサス）は、総数 746 戸、うち販売農家 476 戸。専兼業別では専業が 53 戸、第 1 種兼業 48 戸、第 2 種兼業 299 戸である。
- 耕地面積（平成 16 年調査）は 467ha で、うち田 282ha、畑 185ha（うち樹園地 51ha）である。
- 主な作目は、水稻（平成 16 年 171ha）、野菜（キュウリなど）、果樹（梨、柿など）および畜産（乳用牛および肉用牛で、飼育農家数は平成 17 年で 29 戸）である。

[振興方向]

- 年間 60 万余の観光客が訪れる昼神温泉があり、朝市・常設市場での農畜産物の販売および加工事業による高付加価値型農業を積極的に進める。

[J A]

- J A みなみ信州（農地保有合理化法人）

[支援センター]

- J A みなみ信州阿智支店に設置。
- 下伊那郡の水田協議会は、「南信州地域水田農業推進協議会」として 1 本化されている。

2 GISの整備・取組み経過

[導入年度及び利用した補助事業]

- 平成 14 年度
- 農地情報利用効率化対策事業

[導入方法]

- 税務課で導入されたのに合わせて導入
- 「台帳システム」と「地図システム」を同時に導入
- 導入以前は紙の台帳で管理
- 住民基本台帳と固定資産土地台帳を利用して農家・農地台帳を作成
- 税務課で管理する「地籍図」、「地形図」、「航空写真図」データを利用
- スタンドアローン型 1台

[管理主体]

- ふるさと整備課

3 電子地図の管理等

[システムで利用される地図データ]

- システムは 地籍図を基本として、必要に応じて 地形図、 航空写真図を背景として重ねられるものとなっている。



地 籍 図
(ベクトル)



地 形 図
(ラスター)



航空写真図
(ラスター)

4 維持管理

[地図データの更新]

- 年 1 回
- 税務課で更新された地図データにより更新
- 業者委託

[農家・農地台帳データの更新]

- 年 1 回
- 住民基本台帳および固定資産台帳との照合により更新
- 「照合システム」により課内で処理

5 システム活用事例等

[農業委員会としての利用]

- 転用申請時の添付図面作成
- 利用権設定（35 件 / 年）時の位置確認

[その他の利用]

- 生産調整のために、毎年 3 月頃農地台帳を農家に提供
- 新しく道路を通す時や宅地分譲時の地権者確認

[その他]

- 「遊休農地」：GIS による管理はしていない
- 「生産調整」：別システム（GIS ではない）で管理
- 「農業振興地域」：GIS による一筆管理はしていない
- 「中山間地域等直接支払制度」：GIS による管理はしていない

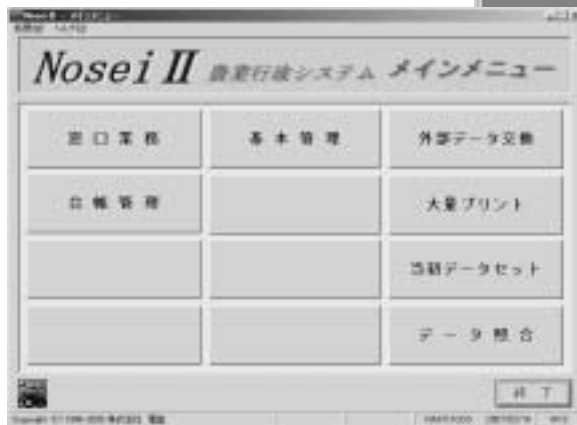
6 導入効果と今後の課題

[効果]

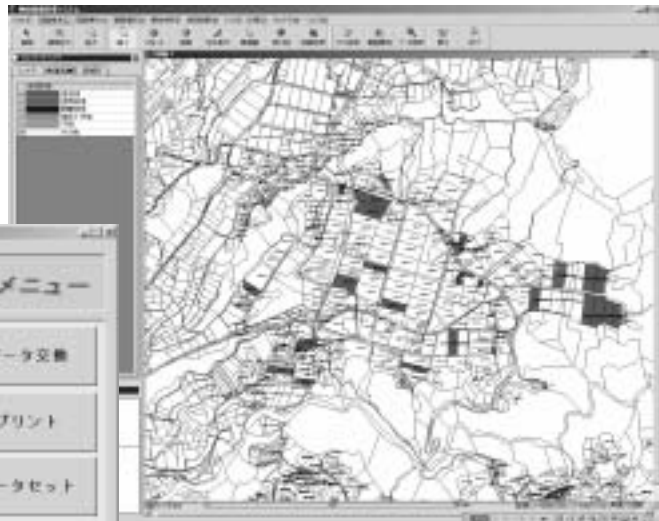
- 阿智村では標高 410m から 2,191m までの山間地に農地が点在しているため、GIS で地番図と航空写真と重ねることにより、各種業務での位置確認業務が容易におこなえる。
- 生産調整の計画を目的として、農地台帳を毎年農家に提供していることで、台帳更新の確認がとれる。

[課題]

- 農地基本台帳システムと地図システムの業者が違うためか、台帳から地図を表示し、位置を確認する一方通行の機能にとどまっている。
- 農地基本台帳の管理項目は管理されているが、項目の追加 地図表示の自由度がないことも用途が広がらない一因と考えられる。
- 地図が最大 A3 の大きさまでしか出力できないことが、用途が限られる一因と考えられる。



メインメニュー



利用権設定値分布図

調査者：小澤 克巳（地域農業経営戦略研究会代表理事）